

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成24年度第3回 高松市ユニバーサルデザイン基本指針策定懇談会
開催日時	平成25年1月29日(火) 10時00分～11時25分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 高松市ユニバーサルデザイン基本指針（原案）について ▪ その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	吉田委員，平木委員，上杉委員，遠藤委員，田村委員，中島委員，野上委員，早馬委員，平野委員，三矢委員，元山委員
傍 聴 者	0人
担当課および 連絡先	政策課ユニバーサルデザイン推進室 839-2141

審議経過および審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

議事・ 高松市ユニバーサルデザイン基本指針について

① 基本指針（原案）について

高松市ユニバーサルデザイン基本指針（原案）について事務局より説明

【主な質疑・意見等】

（上杉委員）

分かりやすいが、書体が入り混じっているのが少し気になるので、統一した方が見やすいのではないか。

（遠藤委員）

教育が大事だということが文面に表れたということと、市の責務の部分に、小学校など教育現場で学び考える場を設けるとということが盛り込まれているので、良いのではないか。

（田村委員）

これまでの意見を基に図や写真を使うことによって、すごく見やすく、分かりやすくなっている。

（中島委員）

「おもてなし」を高松らしさと結びつけて、さらにユニバーサルデザインの基本原則として皆に認識してもらうために噛み砕いて書いてあるので、すごく分かりやすくまとまっていると感じる。

また、子どもに対する、教育についても触れられているので問題ないと思う。

（元山委員）

よく整理されており、非常に分かりやすくなっていると思う。

ユニバーサルデザインとは多少異なるかもしれないが、国の障がい者の雇用義

審議経過および審議結果

務制度のことも少し入れた方が、事業者としての責任の重みが出てくるのではないだろうか。

(三矢委員)

「気づき」、「気づかい」、「温かい声かけ」は分かりやすいと思うが、「相手が望む手助け」については、「手助け」というと一方的な感じがするので、「望ましい対応」というような別の言葉のほうがいいのではないか。

また、人材育成については、子どもたちに小さいときから、そういう気持ちや意識を醸成していくために、大変重要な部分だと思う。「教職員や保護者」のところに、「地域」を入れてもいいのではないか。

(平野委員)

私としては、「誰もが」という言葉が、自分も含まれているという気持ちにさせてくれるようになっていて感じた。

(早馬委員)

人材育成については、小さいときからの教育というものが大変大事だと感じている。さらに、先生や保護者の考え方というものは、小さい子どもの頭の中に入っていくので、この人材育成の部分はしっかりやっていただきたい。

(野上委員)

子どもの教育に関して、保護者や教員の勉強や、それに関する啓発、そして私たちができることについて盛り込んでもらっているので、いい指針になったのではないかと思う。

(平木副会長)

それぞれの役割のところ、市民の役割、事業者の役割、市民活動団体の役割とあり、これでいいのだが、次の段階で、これを行うために、市からの適切な助言であるとか、広報などを考えてもらえればと思う。

議事 ▪ 高松市ユニバーサルデザイン基本指針について

② 基本理念について

高松市ユニバーサルデザイン基本指針理念について事務局より説明

検討後、基本指針理念A案「認めあい、支えあい、おもてなしの心で暮らすまち 高松」に決定。

議事 ▪ 高松市ユニバーサルデザイン基本指針について

③ 高松市のユニバーサルデザインについて

(田村委員)

以前から考えていたことだが、ユニバーサルデザインとは何だろう、どういったものをユニバーサルデザインと言っているのだろう、と自分の中の疑問が非常に大きくなった。

ユニバーサルデザインとはどんなものかということ、この場を借りて皆さんと話し合えればと思う。

(中島委員)

随分過ぎやすく変わってきたとは思いますが、まだまだ根底に不十分で使いづら

審議経過および審議結果

いところはあるので、評価を加えながら、利用者の意見を取り入れ、分かりにくいところを改善していくということをずっと続けていかなくてはならないと思う。実際のところ、まだまだ使いにくいという意見をもらって、それをどう組み入れるのかというプロセスの方が重要なのではないかと思う。

(遠藤委員)

以前は水とお湯の出る二つの蛇口があったのが、温度が変えられるように混合水洗として蛇口が一つになり、今度は蛇口をひねる事が困難な人のためにレバーハンドルになり、この頃は自動になっているものがある。このように、だんだん意見収集と評価を積み重ねることにより、改善されてきたのであり、こういう姿勢が大切だと思う。

市としても、ハートビル法などの法律の届出制の窓口として、法律が遵守されるよう、よく検証し、啓蒙してもらうことに力を入れてもらいたい。

(上杉委員)

誰から見ても使いやすい便利なものというものは、現状では難しいのではないか。これから改善し、どんどん進化してスパイラル状に変化し良くなっていくべきものなので、その都度見直して、時代や環境に合わせて、我々の心も製品も前に進んでいかなくてはならない。

(野上委員)

サイン自体はユニバーサルデザインであっても、位置が悪くて意味をなさないこともある。不具合があった時に、それを改善するシステムがないと、それまでの間不自由に思う人がいることになる。いろいろなことが複合されて改善されていくべきなので、そういったことを受け入れる窓口や議論する会議などがあればいいのではないかと思う。

(早馬委員)

ハード面で配慮されたいろいろなものがあるが、それを使いづらいと感じる人もいるだろうし、外国から来た人には分からないものもあると思う。心のユニバーサルデザインというものを大勢の人が持って、認めあい、支え合うという心で、不自由な人を助けて、不自由を感じなくすることが大切なのではないかと思う。

(平野委員)

ユニバーサルデザインとは何かというと、一つの理念で、デザインの上でより多くの人を使いやすくするという考えだが、その考えがどこから来るかというと、やはり心だと思う。目の見えない人には点字ブロックが必要で、車いすの人にとってそれが不便であるのなら、両方が使いやすくなっているか、さらに考えていく。それぞれのニーズが違うので、全員をいつも満足させることは有り得ないのだけれども、お互いに気づかって、この人はどこが使いづらいのかということを考えることが大切である。

(三矢委員)

自分が健康な状態では分からない、なってみないと分からないということがたくさんあるので、いろいろな人の意見に耳を傾けるということ、深く知ることが非常に重要である。また、いかに具体的な便利なものが出てきたとしても、その根底に思いやりとか優しさとか気づかいなどの心の面での配慮がなければ、ユニバーサルデザインが具体化する時の形になって出てこない。人材育成、教育といったものは、将来のユニバーサルデザインのための備えとして、非常に重要なことである。

審議経過および審議結果

(元山委員)

ハード面で不十分なところ、足りないところを皆で支えあっていくことが基本だと思う。ユニバーサルデザインはハード面の話が多くなるが、半分は心の問題、人としてのありようの問題になると思う。

(田村委員)

身体の不自由さというものは誰にでもあるものだと思うが、何に対して不自由を感じているか、逆に何ならできるか、情報を発信していかないと、知らない人たちもいる。いろいろな情報を発信することで、たくさんの人々の心を繋いでいくことができるだろう。そのためには、教育という現場の中で、人材育成に取り組むことは重要だと思う。「心のユニバーサルデザイン」というものを、高松市の基本指針の中でより多くの人に知ってもらい、広めてもらいたいと思う。

(吉田会長)

ハード、いわゆるモノの改善は、事業者によってどんどん進んでいくが、根幹にある最も大事なものは人の心であり、この「心のユニバーサルデザイン」について、いろいろな立場で育成していかなくてはならない。

これまで皆さんからいただいた意見をまとめたものとして、基本指針の原案ができていますので、さらに今日いただいた意見を踏まえた上で、指針案を作成するようお願いしたい。

また、いろいろな政策の中で実際どのように取り組まれているかということ、委員の皆さんに経過報告などいただければと思う。

議事・ その他について

その他（スケジュールおよび意見募集等）について事務局より説明

【主な質疑・意見等】

特になし

—以上で審議終了—